西東京市市民協働推進センター

平成 28 年度第 6 回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 28 年 10 月 18 日(火)午後 7 時 00 分～9 時 00 分
■開催場所：イングビル 3F
■出席委員：池田委員、熊田委員、紺野委員、坂口委員、佐藤(文)、鈴木委員、田中(友)、田中(宏)、谷委員、富沢委員、中村委員、＜以上 11 名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、佐藤副センター長、小平福祉活動推進課長、妻屋課長補佐、八阪主事

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、9 月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：市民活動相談にある、田無公民館の助成金とは何か。他の公民館にもあるのか。

委員長：公民館の講師派遣事業の助成金のことではないか。

委　員：地域活動情報ステーションからの移行とは何か。また、移行したのが 3 団体は少ないのではないか。

事務局：市の事業で市民団体の情報発信をサポートする地域活動情報ステーションがあったが、ゆめこらぼのホームページのリニューアルにあたり、ゆめこらぼのホームページで統合することになった。市が地域活動情報ステーションに登録の全団体へ周知したが、活発に情報発信している団体が少ないせいか、ゆめこらぼのホームページへ移行したいとの要望が少なかったようだ。

委　員：アクセス数が増えているようだが反響はどうか。

委員長：10 月 1 日にリニューアルした反響は何かあるか。

事務局：ホームページのリニューアルに関してはホームページ上で発信したのみである。29 日に NPO 市民フェスティバルの事前説明会があるので、その場で登録団体への説明を予定している。そこからいろいろ意見がでてくるのではないかと考えている。利用者懇談会での説明ではおおむね好評であった。

委　員：リニューアルした場合は市からプレスリリースがくるものだが、今回もそれをしてはどうか。1 ヶ月目とか節目にアクセス急増とか発信をすれば、どこかで取り上げられる可能性はあると思う。

委　員：フェイスブックは正式にゆめこらぼでやることになったのか。

事務局：正式にフェイスブックをゆめこらぼとして開始した。友達申請をし、ゆめこらぼのホームページに新しい情報が載ったことは日々流すようにしている。

2. 10 月以降の事業について

事務局より、10 月以降の実施事業について説明があった。

委員長：まちめぐりはどうであったか。

事務局：団体の活動現場を実際に見学することができたため、参加者からは質問も活発に出て有意義であった。

2. 審　議　事　項

1.前回会議録について

委員長：今週末までに意見がなければ、確定稿とする。

3. 協　議　事　項

1. 事業報告及び決算について

事務局より、平成28年度上半期の事業報告（案）について説明があった。

委員長：質問並びに成果や課題について意見はないか。

委　員：事業によっては前年比が出せるものがあればわかり易いのではないか。

委員長：いくつかは記載されてはいる。

委　員：重点事業のゆめこらぼ通信の発行体制を知りたい。各団体を回り交流ができたということだが何人くらいが取材にいき、通信の制作には何人くらい関わっているのか。

事務局：1面記事はゆめこらぼ事業の紹介記事とし、ままペンシルという団体の協力を得て記事を書いてもらっている。2・3面は登録団体に取材に行き記事にしている。4面は告知などである。基本校正など執筆のスタッフは2名でやっている。

委　員：どこで配布しているのか。

事務局：公民館など公共施設中心である。

委　員：10月1日号は本来なら1面にホームページリニューアルをもってくるものではないか。1面はゆめこらぼで実施した事業を紹介するという話だが、実施済のものだけでなく実施中のものもPRしてはどうか。以前から気になっていたが、すべて終了したものになっており、現在進行形のものがない。ニュースは新しいものであり実施中の事業を載せていないことが気になる。

委員長：固定の枠組みにこだわらず毎号発行する際には多少変えてもよいのではないか。ボラセンとの相互交流は今後どうなるのか。

事務局：前回のボラセンの委員会に出席して勉強になった。今後も参加していきたい。

2.事業計画及び予算について

事務局より、平成29年度の事業計画（案）について説明があった。

委員長：基本的に仕様書に基づいて作成していくことになっているので、大胆な変更はできないが、事業の細かいことはその都度企画を出してもらい協議していくこととし、それを前提に意見や質問はないか。

委　員：情報提供事業でスタッフによるセンター外での情報提供とは何か。

事務局：相談事業や地域活動紹介ゆめサロンでスタッフが事業の遂行のため外へ出ていくことがある。その際に、Wi-Fiにパソコンをつないでインターネットを使用して説明などを行う。

委　員：ホームページを作成したのだが、ゆめこらぼで活用してもらうにはどうすればよいのか。

事務局：団体の基本情報を載せるページがあるのでそこへ貴団体のホームページアドレスを掲載し、リンクを貼ることができる。ゆめこらぼでは団体のイベント情報を発信しているので、団体のホームページの情報を転載することもできる。

委　員：ホームページを活用するにあたり団体に対するフォローはしてもらえるのか。

事務局：個々に団体のホームページの中を見た上で、できることを相談し発信していく。

委　員：相談用ツールの活用とは何か。

事務局：今年度にQ&A集を作成するので、その活用をすることである。
委　員：機関紙の紙面をカラー化するとあるが、ホームページがカラーだから印刷もカラーにするのか。紹介するのも大切だが実際にリンクに飛んでもらうことが大切なので、QRコードがきちんと掲載されている方が大切なのではないか。
事務局：個々の団体のホームページの内容を紹介するのが趣旨ではなく、ホームページを作っている考え方だとか、作っている人材や苦労などを他の団体の参考になるような記事にしたい。その中でホームページを示すのにはカラーのほうがわかり易いのではないかと考えた。
委員長：講座と紙媒体両方で紹介することは次年度の課題でもある。
委　員：団体紹介冊子での団体の記事はどの程度のボリュームか。
事務局：団体紹介の文章を130字、他に活動の様子の写真、ボランティア募集などの情報を掲載する。
委　員：登録団体はすべて載せているのか。1000部とはどの程度活用していることになるのか。
事務局：掲載を望まない団体を除き、それ以外は載せている。1000部は一年ではける量である。
委員長：次年度は、一つひとつの事業を組み立てるには、次の4点を念頭におく必要があると考えている。1.事業の評価が求められていく可能性がある。2.地域の活動がSDGs(持続可能な開発目標)に関連して考えられていく可能性がある。3.オリンピック・パラリンピックの開催を契機として市民参加がもりあがっていくのではないか。4.休眠口座のお金がNPOや市民活動などで有効活用される仕組みが作られそれを市民側もどう活用していくか。
委　員：協働のまちづくりワークショップは平日ではなく参加しやすい日程で企画してはどうか。
事務局：日程に関しては行政の職員の研修の場でもあるため平日の開催となっている。
委員長：地域の企業の方々が企業人として土日で参加できるのか。
委　員：地域の企業経営者側の方が興味をもつと考えられるので土日が参加しやすいと思う。
委員長：意見として挙がっていることを行政に伝えることとする。
委　員：ゆめこらぼの登録団体には、市民活動だけやっている団体と協働をやっている団体が混ざっている。協働への取組みに対して、登録団体はどう判断すればよいのか迷う。
事務局：ゆめこらぼの目的としては2つあり、市民活動団体の支援と協働を推進することである。協働をする団体しか支援しないというわけではない。市民活動を支援していくことも目的である。
委員長：ゆめこらぼの成り立ちから行政と市民団体の協働が多いが、企業と市民団体、市民団体と市民団体の協働も含まれている。

3.センターの業務の執行に関する事項（重点事業の企画）について

事務局より、平成29年度の運営委員の候補者（案）について説明があった。

委員から候補者の推薦があり、議論した。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：11月15日（火）19時～21時

会場：イングビル3階　会議室